

草の根通信

Vol.67 (2011年6月17日発行)

日米草の根交流サミット



米国サンフランシスコ
リック・ウィルマーディング
高等学校 生徒の

WILMERDING
High School Stu

Thank You



リックウィルマーディング高校から贈られた激励の横断幕を手にする大川小、門脇小、雄勝小&中学校の生徒達と宮城県石巻市亀山紘市長。
(後方左から門脇小佐々木隆哉校長、メグミ・イノウエSFベイエリア大会事務局長、久我恵美子宮城大会石巻キーパーソン)

P10 草の根サミットから生まれた活動

「始まりは草の根サミットから
— 地域へ国際交流の場を」
国際交流団体あんさんぶる茂原代表 小高美喜さん



P12 事務局便り

3.11(東日本大震災)の衝撃



P12 協賛企業一覧

平成22年度寄附協賛企業一覧



P09

高知大会直前情報 / 同窓会について

「皆さんの到着をお待ちしております」



P06

人生観を変えた思い出

寄稿 メグミ・イノウエさん

4



P05

南三陸町 生涯忘れえぬ思い出

寄稿 ミッシェル・マルケスさん

3

P04

ホームページによる支援活動

Eメールなどの翻訳サービス開始

1

2

特集

全米各地に広がった支援の輪をご紹介します
東日本大震災への支援活動

速報

2012年大会開催地決定!
ダラス・フォートワースでの次回大会について



世界初。

ANAは世界に先がけて、ボーイング787を導入いたします。

※写真はイメージです。

ANA | A STAR ALLIANCE MEMBER 

www.ana.co.jp

近代的ビルが林立するダラスの夜景



2012.8.28-9.4

第22回ダラス・フォートワース大会!

米国テキサス州北部のダラス市、フォートワース市及び周辺都市で
8月28日から9月4日の1週間開催決定!!

2012年のサミット大会は、米国テキサス州北部のダラス市、フォートワース市及び周辺都市で8月28日から9月4日の1週間開催することが決定しました。

ダラスはケネディ大統領の暗殺で一躍有名になった都市ですが、このダラスこそ極めてアメリカらしい町ともいえます。

20世紀に入り、石油が発見され、オイルビジネスの中心地として巨大な商業都市に発展を遂げましたが、その一方で、世界的にも知られる美術館や博物館が多くある文化都市としての、魅力もそなえています。

フォートワースは大西部の昔が今も息づいている、西部劇に出てくるような町です。ストックヤードではカウボーイが活躍する、昔ながらのテキサスの姿があり、ほぼ毎週ロデオショーが開催されています。異なるテーマを持った美術館や博物館めぐりも楽しめます。

草の根サミット2012は、ダラス・フォートワース日米協会を中心に、地元のボランティア及び関係団体などの支援と協力を得て順調に準備が進められています。

大会プログラムや、地域分科会開催地（ホームステイ受け入れ地域）などの詳細については、ホームページなどで随時紹介していきますのでご期待下さい。



ロデオなど、古き良き西部の魅力が溢れるフォートワース市のストックヤード



分科会開催予定のサウス・レーク市



分科会開催都市のアービン市



ダラス・フォートワース大会準備委員会の主要メンバー

“Save Japan”

日本を救おう！

この度の東日本大震災で被害にあわれた皆様に、心よりお見舞い申し上げますとともに、震災で亡くなられた方がたのご冥福をお祈り申し上げます。

CIE 事務所には、3月11日に東日本大震災が発生して以来、米国からひっきりなしに東北地域からの過去のサミット参加者の安否を問い合わせる e-mail が入ってきました。というのも、2009年の日米草の根交流サミット大会は宮城県で開催され、しかも気仙沼、石巻、松島、岩沼、名取など、多くの米国人参加者は沿岸部にホームステイをしていたからです。

地震発生直後からの CIE の支援活動について紹介します：

1. ホームページによる支援活動やメッセージ

✓ サミット参加者・関係者安否情報リスト掲載

- ・震災直後に 150 名以上の方々の安否情報リストを作成し、ホームページで随時アップデート。

幸いにも、3月26日までには全員が無事であることが確認されましたが、なかには、家を流されて避難所生活を余儀なくされた方、ご親戚を亡くされた方、店や会社の家屋を失った方などもおられました。

✓ 日本を救おう！ 「草の根サミットから生まれた広がり」を紹介

日米草の根交流サミット大会にこれまで関係された方々が、この度の災害を見舞い、募金活動を開始するなどの動きを紹介：

- 1) お見舞いのメッセージー アマコスト元駐日大使より (3/15)
- 2) クラレンドン小学校の募金活動 (TV ニュース付)ー シドニー・ナカムラさんより

[2011.03.18]



2010年の日米草の根交流サミット・サンフランシスコ/ベイエリア大会で、ホームステイ・プログラムを担当したシドニー・ナカムラさんより、クラレンドン小学校で緊急に開催された「Ganbare Japan(がんばれ日本)」募金イベントの情報が入りました。

クラレンドン小学校では、ジョン万次郎をテーマとした学芸会などを開催しており、サミット大会においては、たくさんの PTA の方々がホスト・ファミリーとしてご協力くださいました。そのクラレンドン小学校において、校長先生のよびかけで急遽3月16日の夕刻にチャリティ・コンサートが企画され、子どもたちが歌や演奏を披露。父母、同窓生、地域の方々が集まり、たった2時間で22,000ドル(約200万円)の寄付が集まりました。また、この様子は地元テレビでも放送されました。

- 3) サンフランシスコの高校生から被災した石巻の生徒にリュック 500 個と学用品贈呈の紹介、他
- 4) 渡邊理事長から米国の友人達へのメッセージ掲載。

- ・米国から寄せられた数多くの激励や見舞いに対し、財団から謝辞

2. Eメールなどの翻訳サービス開始



- ✓ 日本語の苦手な米国の方々と英語に不得手な東北の方々をつなぐために、CIE のボランティアによる翻訳サービスで両者の交流を支援

3. 南三陸町 - 生涯忘れえぬ思い出

寄稿：ミッシェル・マルケス（コロラド州）

ミッシェルさんは、2009年の「みやぎサミット大会」に参加し、グラナダ高校のトレゴン君とカイル君と一緒に南三陸にホームステイしました。

津波で最悪の被災地となった南三陸町の様子を米国の自宅で見てショックを受け、居ても立ってもいられない思いから、そして、ホストファミリーである三浦さん、齊藤さん家族との思い出と、以前の美しい三陸地方を紹介したいと思い、両家の皆さんが無事であることを念じつつ……、

“Minamisanriku-cho, Memories To Last A Lifetime”

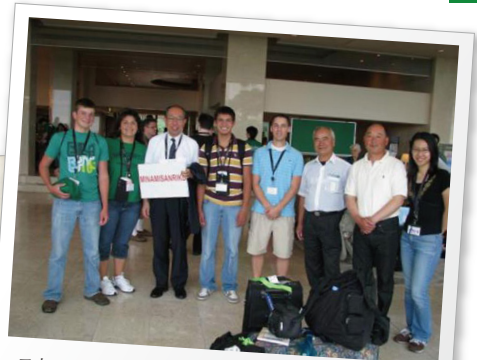
(南三陸町一生忘れぬ思い出)

を書いて CIE 事務局に送って下さいました。

原文は長文のため、写真のみ抜粋して掲載します。

尚、原文は CIE 事務局にお問い合わせください。

(TEL : 03-3511-7171)



これからホームステイ先の南三陸へ。出迎えの実行委員と一緒に記念写真 (左から：カイル、ミッシェル、佐藤副実行委員長、トレゴン)



カイルと齊藤さん家族



トレゴンと三浦さん家族



町の人と一緒に南三陸の港祭を楽しむトレゴンとカイル



南三陸市内の佐藤みやぎサミット副実行委員長 (右端) 宅での歓迎交流会



美しい佐藤家の日本家屋と庭園



津波被害直後の南三陸の全景

CIE 事務局では、3月21日に齊藤さんの無事を確認することができました。ただし、お祖母さまの家は津波で流失してしまったとのことでした。

なかなか連絡がとれなかった三浦さんからお電話をいただいたのは3月28日。その後、以下のE-mailをいただきました。

「齊藤さんから連絡を頂き、草の根交流センターの方々から安否の問い合わせが入ったと知らされました。ホームステイ受け入れの時は、とても楽しい時間を過ごす事ができ、あの頃がとても懐かしく思い出されます。あの時、彼らを案内した町も学校も海辺も、そして我が家もまるっきり無くなってしまいました。当日、家族はみんなバラバラで、三日目にようやく全員と会うことができ、今は町内でも山沿いにある入谷小学校というところで、避難生活を送っています。ミッシェルやトレゴン、カイル達に、是非無事である事をお伝え頂ければ、ありがたいです。電話でもして声を聞かせられれば良いのですが……。近い将来、必ずお会いできるのを希望にして、少しずつ前進していきたいです。とりあえず、無事の連絡まで…」

(三浦さんご一家はその後仮設住宅に入居されました。)

4. 人生観を変えた思い出

寄稿：メグミ・イノウエ（サンフランシスコ／バイエリア大会事務局長）



2009年に訪ねた石ノ森萬画館前の写真

(注：紙面の制約で一部のみ紹介。原文で希望の方はCIEにご連絡下さい)

2009年みやぎ大会に参加されたメグミ・イノウエ サンフランシスコ／バイエリア大会事務局長が、東日本大震災発生後の4月15日、文房具を詰めたリュック500個を被災地へ届けに急遽来日しました。帰国後、CIEにメッセージを寄せてくれましたので、ここに紹介します。

■ CIEの友人の皆さん

娘のマデリンが通うサンフランシスコ(SF)のリック・ウィルマーディング(LW)高等学校では、地震と津波という悲劇が日本の東北地方に起こった直後に、日本の被災者を支援することにしました。そして、娘と友人のオリバー君が2009年のみやぎ大会に参加したことから、この個人的な関係を生かす支援策を検討することになりました。

私たちは、みやぎ大会の石巻地域分科会のキーパーソンであり、2010年のSF大会にも参加した久我恵美子さんから石巻市立大川小学校の悲劇を知りました。

久我さんは石巻市に相談し、通学用のバッグと学用品が大川小学校と近隣の学校の児童生徒たちに必要であることを知らせてくれました。この児童・生徒たちは津波であらゆるものを失ってしまったのです。



災害後の石ノ森萬画館



マデリンとオリバー君はみやぎ大会の開会式でFBC Storm ヒップホップダンスグループのメンバーとしてダンスを披露

特集 東日本大震災への支援活動

支援品を送る

LW 高校の生徒、教員、職員、ボランティアの保護者が集まり、通学用のリュックを荷造りしたり、キャンディーのレイ（キャンディーをつないだ首飾り）を作ったり、石巻の子どもたちに向けてそれぞれの人がメッセージを書きました。

ソノマ郡のホストファミリーの皆さんと折り紙作家のヘンリー・カクさんが生徒たちと一緒に折鶴を制作し、ドロシー・ユキさん（SF大会の芸術委員会リーダー）はキャンディー・レイを作る作業のボランティアを助け、寄贈品のスクール・バナー（校旗）と学用品を荷造りしました。

また、ダナ・フジイさん（SF大会のローカル・ツアーリーダーで、お嬢さんが LW 高校の生徒）が、チャイナ・タウンのロータリークラブで通学用のリュックを購入するための募金活動をしたところ、S F 大地震の時に日本のロータリークラブが義捐金を送ってくれたお返しとして、必要額の小切手を切ってくれました。



ところが、善意の詰まったリュック 500 個が集まり、早速、石巻まで届けようとした時に、大問題が発生しました。

被災地では、交通網が遮断され、物流が復旧されていないため、緊急支援物資の指定を受け、目的地までの日本国内輸送業者を探さない限り、リュックは石巻に何時届けられるか分からないということが判明したからです。

そこで、私は CIE に急遽電話して窮状を訴えると、石巻市で緊急災害援助をしている NGO「JEN」を紹介してくれました。

たまたま、JEN の理事をしている CIE の職員がいたこともあり、JEN は石巻までの輸送手続きと費用を全て自己負担し、学用品が入ったリュック 65 個の荷物を羽田到着後わずか半日で石巻の学校に届けてくれました。その結果、被災した学校が再開される直前の 4 月 18 日に、リュックと学用品は石巻市長に手渡すことができました。

尚、SF 市長から石巻市長へ宛てた公式贈呈状は、SF 大会でサン・マテオ郡にホームステイした翻訳家の下山さんがボランティアで翻訳して下さいました。



荷物を運んでいるのは、SF大会に参加し、コントラ・コスタでホームステイをした JEN 監事の早坂さん

特集 東日本大震災への支援活動

通学リュックが子どもたちの手に渡る！ - 石巻市役所での贈呈式の様子 -



私がリュックに一杯詰まった鉛筆とステッカーを子どもたちに見せて、好きなだけ持っていくように話すと、子どもたちは1人にひとつずつしか取りませんでした。



津波に襲われ被災した大川小学校



地震・津波、更に直後の火災で大被害を受けた門脇小学校



正面左からメグミさん、亀山市長、久我さん。亀山石巻市長が大川小、門脇小、雄勝小中学校の代表の生徒たちに通学リュックを手渡しました。

宮城の友人たちとの再会



宮城大会の開会式典の会場となった大観荘の前で再会を喜ぶ。前列左から、佐藤みやぎ大会副実行委員長、轟木 CIE 事務局長、大村宮城大会事務局長、後列左から、木山 JEN 事務局長、相澤松島地域分科会キーパーソン、メグミさん、早坂 JEN 監事

私は、LW 高校だけではなく、SF ベイ・エリアの人たちの愛と思いやりと友情を皆さんと共に分かち合いたいと思いました。すべての人たちが理解していたことは、愛と希望と友情のメッセージを送ることが重要ということでした。心からの贈り物でした。私はこの心の交流がとても大切なことを深く、深く理解しています。私たちはこれを続けなければなりません。

ホイットフィールド船長が万次郎に差し伸べた親切が表している精神、そして、その後 170 年にわたる友情は、現在も日米草の根交流サミットで築かれた関係を通して生きています。

3月11日に日本の東北地方を襲った地震と津波は、友情の絆を持ち続けることの大切さを思い起こさせてくれました。

この気持ちを持って、私は6月の高知大会に参加します。そして、新しい日本の友人を増やし、旧知の友人に再会することを楽しみにしています。

高知大会直前情報／高知大会同窓会について

高知大会実行委員会より

「皆さんの到着をお待ちしています！」

3月11日の東日本大震災の発生に伴い、特に福島原発の放射能などの影響を懸念し、CIEでは、地元高知実行委員会および米国側の協力団体等と、延期・中止を含め検討しました。

しかし、地元土佐清水市からは、「米国の参加者に来ていただければ大歓迎したい」、米国からは「このような状況に日本があるからこそ、被災された方々に対して応援のメッセージを届ける場としたい」等の激励と要望を受け、高知大会を予定どおり6月28日から7月4日の1週間開催することを決定しました。



ご承知の通り、1841年、ジョン万次郎は14歳の時に宇佐浦近海で漁をしていて突然の嵐に遭遇しましたが、幾多の困難を乗り越え、10年間のアメリカ生活の後、日本に帰国。そして、日本の開国及びその後のアメリカ技術文化の紹介などに重要な役割を果たしました。

その因縁なのか、これまでも草の根サミットでは大会開催前に災害が発生することもありましたが、結果的にはその困難を克服し、想い出に残る素晴らしい交流を実現してきました。

高知大会は県全域で開かれますが、オープニング・セレモニーと歓迎レセプションの会場となるのは、万次郎の故郷・土佐清水市です。ホイットフィールド船長、万次郎及びペリー提督ご子孫他、多数のジョン万次郎関係者が参加される予定です。また、分科会を開催する各市町では、一生の思い出になるような楽しい交流ができるよう盛りだくさんの企画を準備しています。

高知大会同窓会について

第19回みやぎ大会で初めて同窓会を開催し、好評を得たため、高知でも開催することになりました。

同窓会には過去のサミット大会に参加された日本の方々及び、CIEの賛助会員や関係者に参加いただき、この機会に、旧交を温めていただくとともに、CIEの活動に対するの助言や提言など話しあう場としていただければと考えております。

同窓会参加者は、アメリカからの参加者とともに万次郎の生誕の地である土佐清水を訪問し、オープニング式典やレセプションにも加わります。

同窓会の参加者人数は40～50名を予定しております。

尚、今回の同窓会発起人・幹事は下記の通りです：

会長：中山貴恵、副会長：魚岸志乃富
事務局：小高美喜、村井二葉、森 信之

【日程表】

月日	行程	食事
6/28 (火)	16:30 までに高知ホテル (高知駅前) チェックイン 17:00～19:30 同窓会／親睦会 (庄やJR高知駅店)	夕食
6/29 (水)	7:30 高知⇒桂浜(坂本龍馬像) ⇒万次郎出航の地⇒オープニング セレモニー⇒足摺岬、金剛福寺 (ジョン万次郎銅像)⇒ウエルカム パーティー(宿泊：足摺パシフィック ホテル花椿)	朝食 昼食 夕食
6/30 (木)	8:00 ホテル⇒ジョン万生家⇒ ジョン万ハウス⇒海底展望塔・ 海底館⇒昼食／各自自由食⇒ 高知駅または高知空港にて 15:00 頃解散	朝食 昼食

あんさんぶる茂原

「始まりは草の根サミットから 一地域へ国際交流の場を」



国際交流団体あんさんぶる茂原 代表 小高美喜

米国大学生、ホストファミリーとメンバー

私が米国に興味を持ったのは、9.11 がきっかけでした。ちょうど草の根サミット千葉大会（2003年）の準備が始まった頃で、「米国市民と接するよい機会到来」、と実行委員会に加わったのです。そこで「どうせなら地元で分科会を」と知り合いに声をかけ、実行委員会を立ち上げました。「あんさんぶる茂原」という名称は、千葉大会事務局の名称「あんさんぶる・ちば」からとったもの。そのご縁で、千葉大会の実行委員長・内海さんが会員となり、年1回は遠路はるばる顔を出していただきます。また、今回の高知大会では、他のメンバーとともに成田空港でゲストたちを迎える誘導ボランティアに名乗りをあげてくれました。



発足当時メンバーだった市長を迎えて
(右端が著者)

さて、グループメンバーは私を始め、他県出身者が3分の2以上。準備を進めていくうちに、ラジコン飛行機世界チャンピオンがいる、世界第2位である日本のヨウ素生産量のほとんどがこの天然ガス鉱床から産出されている、など思いがけない情報が集り、また、たくさんの方とお会いすることができました。まさに地元(再)発見!

分科会には、当時米国ジョン万次郎協会会長ワレさんご夫妻他9名が参加。「よい体験をさせてもらった!ぜひ、次のボストン大会にいらっしやい!DCのオプションツアーを作るわ」と声をかけてくださいました。私にとっては、まさかの米国本土初上陸。メンバー4名で参加し、大変楽しい時を過ごしました。東海大会ではクロージングに参加し、ワレさんご夫妻と再会。長男と参加したコロラドでは、茂原を訪れたダイアンさんと再会。能登に参加したデンバーのホストファミリーとは東京で。次男と参加したケンタッキー、夫と参加したサンフランシスコ。どの大会でも、魅力的なホストファミリーやボランティアの方々との出会い、それぞれの土地ならではの貴重な体験をさせていただきました。また、みなさんから東日本大震災、原発事故へのお見舞いメールを、昨年参加したソノマ郡の方々からは日本への激励メッセージをいただき、しみじみとありがたく「絆」を感じています。

参加した日本人同士の出会いもこの大会の醍醐味の一つですね。同窓会設立は嬉しいニュースでした。宮城大会同窓会にはメンバー4名で参加しました。ジョン万次郎生誕の地、高知大会での同窓会もとても楽しみにしています。

草の根の「誰でもできる国際交流」という趣旨に賛同し、地元であり外国になじみのない方々にこそ国際交流の場を提供できないかと、そのまま活動を続けることになりました。現在は、毎年、全米各地の大学より日本語を学ぶ大学生40~50名のホームステイ(今年は中止かと思っておりましたが、17名の参加がありました)、近隣の大学留学生のホームビジットを行なっています。



大多喜町のボランティアが手作りで作成した甲冑

海外の勉強熱心な学生たちから刺激を受けるとともに、彼らの背景にある世界情勢も垣間見えてきます。その他、英会話教室や各国紹介、日本文化・生活紹介、各国料理教室などを行い、地元の七夕祭りや春の市へも積極的に参加しています。

これからの課題は、在住外国人をどう支援するのか、国際交流協会への移行は?(茂原市には協会がまだありません)など、でしょうか。

まだまだ小さな団体ですが、ここまで活動を続けられたのは、今まで出会えたみなさんのおかげと、心から感謝しています。そして、草の根に出会えたことが、すべての始まりだったとも。



次の花を咲かせよう。

世界を舞台に多岐にわたる分野で、
様々なビジネスを創造してきました。
それでも、まだまだ成長過程。
人のため、社会のために、
まだ見ぬ花を咲かせていきたい。
私たちはこれからも創造し続けます。

すべては、
ひとつの思いから。

www.mitsubishicorp.com

 三菱商事

事務局だより

3.11 (東日本大震災) の衝撃

シニア・アドバイザー 森 信之

米日カウンシル(US-JC)主催のシンポジウムが、5月30日に経団連会館で開催されたので傍聴してきました。著名なダニエル・イノウエ上院議員をはじめ、ルース駐日大使、松本外務大臣他、両国の政府、経済界の要人が多数参加してのシンポジウムでした。

イノウエ上院議員は、「9.11は歴史的な一日だった。しかし、東日本大震災の起きた3.11は、10年後、100年後にも思い起こされる人類の生き方、価値観をも変えうる、9.11を超えるような重要な歴史的な一日だ。日米関係においては、両国が緊密に連携して困難を克服していくことの重要さに気づき、日本の安定は、アジアの安定に、そして世界の安定に不可欠の条件であることを再確認した。日米の安定した関係を構築していくのは、政治家、外交専門家だけではなく、今後は民間の草の根交流がより一層重要である。」と、今後の日米の草の根レベルの交流の重要性を強調されました。

経済界のトップは「東北の被災地に行って、日本の若者に対する評価が変わった。従来は一見軟弱に見える若者に日本の将来を委ねることに不安を感じることもあったが、ボランティアとして被災地に飛び込み、苦勞を自らかってでも奮闘している若者の姿を見て、大変感銘するとともに、大いに期待したい」と述べられました。



津波が到達した25メートルの高台の駐車場から女川港を見下ろす。津波はこの高さまで到達し、車を破壊した。



石巻市の被災現場を見るヤネヒロ氏

6月3日には、昨年のサンフランシスコ(SF)草の根サミット大会の開会式で司会をされたジャン・ヤネヒロ氏(著名な米国のTVニュースキャスター)が、東北の被災地を訪れたいということで宮城県を案内しました。「TVの映像や新聞のニュースなどで十分に地震と津波の恐怖について理解していたつもりだった」というヤネヒロ氏は、津波が押し寄せた高さ約25メートルの高台に立ち、女川町の被災地を見渡して、あらためて自然の脅威に打ちのめされ、被害の大きさに絶句していました。

そして、「帰国したら、この大災害にも負けることなく日本は元気に頑張っている、日本に行き激励しようとのメッセージを発信したい」と話されました。

いったい、3.11は日本のどんなターニングポイントになっていくのでしょうか。

いずれにしても、これからの日米関係、そして日本の若者の将来にとって重要な出来事になることは間違いありません。草の根交流を促進しているCIEの一員としては、不幸な出来事ではありましたが、日米の市民の絆が深まる機会になることを希望し、交流事業を継続していきたいと思えます。

平成22年度協賛企業一覧

アイシン精機株式会社／愛知製鋼株式会社／曙ブレーキ工業株式会社／アサヒビール株式会社／イオン株式会社／NTTコミュニケーションズ株式会社／株式会社関電工／キッコーマン株式会社／キヤノン株式会社／キリンホールディングス株式会社／四国電力株式会社／住友化学株式会社／全日本空輸株式会社／株式会社大庄／中部電力株式会社／株式会社デンソー／東京海上日動火災保険株式会社／東京電力株式会社／豊田合成株式会社／トヨタ自動車株式会社／株式会社豊田自動織機／豊田通商株式会社／トヨタファイナンシャルサービス株式会社／トヨタ紡織株式会社／株式会社永谷園／株式会社ニフコ／日本郵船株式会社／日本ユニシス株式会社／パナソニック株式会社／日野自動車株式会社／株式会社ブリヂストン／丸紅株式会社／三井住友海上火災保険株式会社／三菱商事株式会社／明治安田生命保険相互会社／矢崎総業株式会社／株式会社菱食